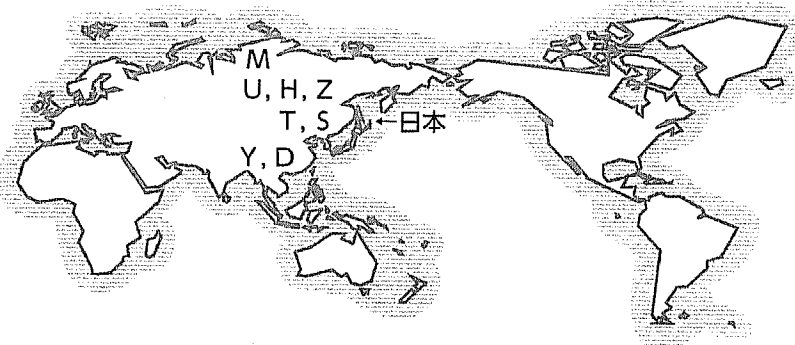


- JICAの人たちは、国のためにがんばっていると思いました。中国の大学生は、日本語を話したり、書いたりしてすごかったです。H
- 中国の大学生は、日本語の教師になりたいという将来の夢があって、子ども達に優しい人達だと思いました。JICAの人達は、中国にいるので日本のいいところを忘れないでほしい。U
- ※中国で日本語を学ぶ大学生のアンケートをもとに、将来の希望を持つこと、真面目に学習することの大切さに気づいた児童が多かった。

中国学習後のアンケートのまとめ

1 下の地図の中で中国の場所に色をぬってください。



※日本の西隣ということはあるが北側や南側の範囲は曖昧な児童が多い。

2 中国の大きさは日本の何倍ぐらいの大きさだと思いますか。

- 100倍ぐらいZ
- 20倍ぐらいT
- 15倍ぐらいD
- 10倍ぐらいH、M
- 6倍ぐらいS、Y
- 3倍ぐらいU

※日本の約26倍ぐらいあるので、まだまだ小さめに考えられている。

3 中国の人口は日本の何倍ぐらいだと思いますか。

- 100倍ぐらいZ、M
- 20倍ぐらいH
- 10倍ぐらいT、S、Y
- 5倍ぐらいD
- 4倍ぐらいU

※日本の約10倍ぐらい。児童の約半分は、これに近いが100倍という児童も2名いる。

4 日本のいいところはどんなところですか。

- 自然がいっぱいある。空気がきれい。H、D
- 戦争がないこと。Z、S
- 自然が多い。T
- 四季がある。和風で落ち着く。U
- 環境がきれい。文化。Y

※「自然環境」「平和」「和風の文化」によさを見出している。

5 日本で問題だと思うことはなんですか。

- 政治がだめだと思う。税金問題。少子化。H、M、D、Y
- 二酸化炭素を出し過ぎる。Z
- 変な事件がいっぱいある。S
- 交通事故。U

※子どもなりによく見て、よく感じ取っている。

6 中国のいいところはどんなところだと思いますか。

- パンダなど、いろんな動物がいる。T、U
- 工業が発展している。M
- 発達している。S
- 田舎には自然がある。H
- みんな仲がいい。Z
- 近い。物価が安い。Y
- ビルが多い。D

※「工業の発達」「豊かな自然」などをプラスに評価している。

7 中国で問題だと思うことはなんですか

- 麻薬の売買。U
- 川などが汚い。汚染。環境。S、M、Y
- 排気ガスなどがいっぱい。H
- 人数が多くて迷子になりそう。D
- 事故。T

※「環境」「人口が多い」「裏社会」について問題だととらえている。

8 あなたは佐久間先生から中国についてのお話や写真、ビデオを通して何を学んだ？

- 中国には古い教えが今でも深く根付いているところ。U
- 中国と日本、お互いに理解を深めなければいけない。M
- 中国のことがよく分かった。S
- 中国の生活、学校など。H
- 中国は、いい部分もあるけれど、悪いところもある。Z
- 中国の文化や中国の人の生活。Y
- 中国のいろいろなことを学んだ。D
- 大きい夢を持った。T

※中国に対して、外見上だけではなく、内面的な部分やいい部分と悪い部分、日本とのこれからの関係、自分の生き方について、一人一人がそれぞれのレベルで学んだ。

9 中国について学習してみなさんの生き方や考え方に変化はありましたか？

- 古い昔に戦争したからと言って、差別をしたりしない。U
- 外国のことを積極的に学ぼうと思った。M
- はい。S
- 大きな夢などを持てるようになった。H
- 中国に行ってみたくなくなった。Z
- 中国などに行ってみたいと思った。D
- 夢を持つ。Y

※中国や外国への興味が増して、夢を持つとうとする児童が増えた。国際理解への関心が高まった。

10 これからみなさんはどのように生活していきたいと考えていますか？（国際理解面）

- 同じ人間なんだから、差別とは無縁に生活したい。U
- 日本だけではなく、いろいろな国の人と友好的に交流したい。M
- でっかい夢を持ちたい。S
- 自然を大切に協力していきたい。H
- 中国の人たちと仲良く暮らす。Z
- いろいろな人々の役に立つような生活。Y
- ごく普通に生活。D

※一人一人のレベルで確実に成果が上がったことが分かる。

Ⅲ. 授業の成果

○中国に対する関心が深まり、中国を知ろうとする意欲が高まったか。

- ・隣国でありながら、中国に対する関心はそれほど高くはない。しかし、授業により中国に対して親近感がわき、関心意欲が高まった。特に授業参観や行事で知らせたことにより、親の関心も高まった。実際の写真やビデオを見せることは、イメージを正しい理解に結びつけ、そのイメージが更新されることにより、中国に対する関心が深まり、中国理解への意欲が高まったと考えられる。福島空港から上海まで4時間弱である。今年度は上海万博もある。決していけない国ではなく、「近い国」、中国なのである。心理的にも「近い国」になってきたのではないかと思う。

○見たり聞いたりした事実を自分なりに考え、正しく判断することができたか。

- ・判断力は、言動や行動によって表出されるものなので、ワークシートに書かれた文章や友達との話し合いの姿から見ると、写真やビデオの事実を受け止め自分なりに判断する姿が見られた。

○見たり聞いたりしたことをもとに、自分の考えをまとめることができたか。

- ・中国のことをもとに、自分なりに考えをまとめる姿が見られた。特に、学習におけるまとめの段階で自分の言葉でまとめる活動をさせたので、個人個人の素直な言葉で自分の考えをまとめることができた。

○中国について正しく理解することができたか。

- ・知れば知るほど、知りたくなるのが中国ではないだろうか。中国を理解するのは、他国を理解する中よりもより多くの努力が必要である。担任が研修で見聞してきた事実は、中国のほんの一部であり、それ以外の部分の方もまた事実なのである。だから、今後もさらに理解していこうという気持ちが必要になるのである。

※開発教育／国際理解教育の考えから、中国をきっかけとして、他の国、そして自分の国日本、自分の考え方や生き方へ生かせるような学習となったか。

- ・この学習が、中国以外の外国に対しても関心を高め、外国のことを知ろうとする意欲を高める一助になった。また、四川大地震の学習を通して困った時には自分がしてやれることを行うことや身近な友達への思いやりの心で接することができるようにしようという気持ちが高まってきた。そして、中国の小中学生や大学生の夢を知り、自分も大きな夢を持ちたいという変化が見られるようになった。

Ⅳ. 課題

○「中国を教える、中国で教える」について

- ・外国について知ることは大切なことである。それぞれの国の状況は、それぞれ違うのでそれらを知ることとはとても楽しい活動である。しかし、それらの活動から一般化し、自分の生活に生かしていくことが「中国で教える」部分になってくる。今回の授業では、中国について理解する部分がメインで、そこから発展する部分の指導が不十分であった気がする。しかし、人間には「推して知る」能力もあるので、そこから学ぶ力も備わっているものである。今回の実践が他国、そして自分自身の生活の向上に役立つものであってほしい。

○国際理解・開発教育に関して

- ・指導者自身の理解が不十分であると、本来の目標には到達できない。今回の実践を通して、指導者自身の理解不足を感じた。その意義とともに手法などの研修を深めていきたい。

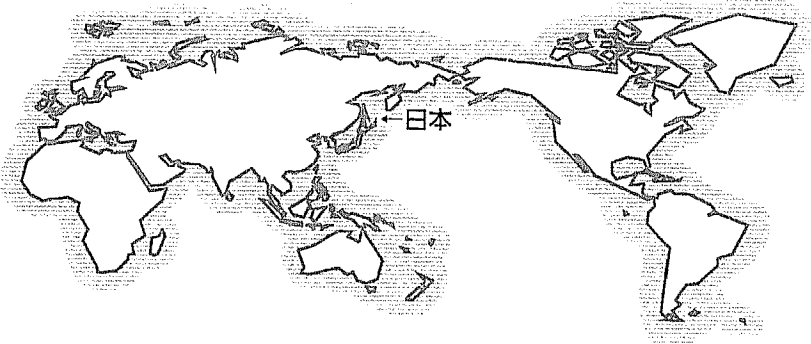
V. 実践に使ったワークシート、資料等

中国アンケート()年()

佐久間先生は8月3日から13日間まで中国に行って学習してきます。国際協力事業機構(JICA)の企画で、日本の国の世界への貢献の一部を見てきます。帰ってきたらみなさんにも中国のことや日本が外国にしていることを教えてあげますね。もちろんおみやげも買ってきましょう。

そこで、中国に行く前にみなさんの様子やリクエストが知りたいので、アンケートに協力してね。

1 下の地図の中で中国の場所に色をぬってください。



2 中国の大きさは日本の何倍ぐらいの大きさだと思いますか。

()倍ぐらい

大きい	}	どちらかを
小さい		

3 中国の人口は日本の何倍ぐらいだと思いますか。

()倍ぐらい

多い	}	どちらかを
少ない		

4 日本のいいところはどんなところですか。

5 日本で問題だと思うことはなんですか。

6 中国のいいところはどんなところだと思いますか。

7 中国で問題だと思うことはなんですか。

8 あなたは中国についてどんなことを知っていますか。

9 佐久間先生に中国についてどんなところを見てきてほしいですか。

10 おみやげはどんなものがいいですか。

中国のみなさんへのアンケート ()

0 今、中国で流行っているものは何ですか。

1 あなたは、中国のいいところはどんなところだと思いますか。

2 あなたは、中国で問題だと思うことはなんですか。

3 あなたは、日本のいいところはどんなところだと思いますか。

4 あなたは、日本で問題だと思うことはなんですか。

5 あなたは、日本についてどんなことを知っていますか。

6 将来の夢は何ですか。(どんな仕事を望みますか。どんな生活を望みますか。)

7 結婚についてはどう考えていますか。(何歳ぐらいで、どんな人と、子どもは何人)

中国のみなさんへのアンケートまとめ・華中師範学校

0 今、中国で流行っているものは何ですか。

- ・ 酒井法子さんの失跡、上海の世界博物展への準備
- ・ 流行歌
- ・ 章子怡
- ・ アメリカの映画
- ・ アニメーションです。
- ・ 東北二人転 (小沈陽)
- ・ アニメーション
- ・ 今、中国ではある歌を歌う番組をやっていて、若い人たちはそれに熱中している。
- ・ 先秀

1 あなたは、中国のいいところはどんなところだと思いますか。

- ・ 広い土地と大勢の人、さまざまな気候、それぞれ違う景色、強い求心力
- ・ 東部の町、広州とか南京とか上海とか。
- ・ みんなはちゃんと親孝行をしていると思います。
- ・ 四川省、上海
- ・ 名所が多いし、きれいなところが多いし、文化が深いし、
- ・ 江蘇省みたいな静かな雰囲気が漂って、古伝的美しさがあるところです。
- ・ つきあいやすい、すなおで
- ・ 人が親切でつきあいやすいところ。
- ・ 親切な人

2 あなたは、中国で問題だと思っていることは何ですか。

- ・環境問題、人数の大きさ
- ・発展につれた問題。例えば環境問題
- ・就職（大学生の就職）が難しくなったと思います。
- ・公正性と効率の関連の問題
- ・人が多いし、環境があまりよくないし、
- ・教育と国民の素質
- ・環境意識が薄いです。
- ・発展のために環境をこわすという問題点
- ・人口

3 あなたは、日本のいいところはどんなところだと思いますか。

- ・伝統をよく受け継ぐところ、景色がいいところ、人が互いに信じ合うところ、自由に政治を語るところ
- ・伝統技芸。例えば茶道、生け花
- ・（礼）日本人の方はいつだって礼儀を忘れないところだと思います。
- ・静岡、北海道
- ・環境がきれいだし、仕事をするとき人人の態度がいいし、
- ・自然を保護する意識が強いということです。
- ・景気がいい。日本人はとても真面目です。
- ・日本人は細かいところまで注意して、世話してくれて、あたたかい感じがする点
- ・一生けんめい

4 あなたは、日本で問題だと思っていることは何ですか。

- ・中国への信頼の弱さ
- ・中日関係の歴史問題に態度は明るくない。
- ・少子化ですね。
- ・経済の成長を続けること。
- ・人間の圧力が大きいです。
- ・いつも残業して生活を楽しむ時間が不足ということです。
- ・いじめ問題
- ・経済発展に力をもっと入れないといけない、経済発展の問題
- ・結果を重視しすぎる。

5 あなたは、日本についてどんなことを知っていますか。

- ・比較的民主化した国、伝統的なものを多く保っている、いい響きがる日本語を持っている。
- ・大都市や伝統技芸や有名人（豊臣秀吉、聖徳太子、田中角栄、大平正芳）
- ・日本の歴史と日本の文化をちょっとだけ知っています。
- ・歴史
- ・アニメの方面で、すごいです。
- ・観光地の京都
- ・島国できれいで、みんな頑張って前向きです。
- ・日本人は仕事にとっても真剣で、日本はきれいで、住みやすい国みたい。
- ・富士山、桜

6 将来の夢は何ですか。（どんな仕事を望みますか。どんな生活を望みますか。）

- ・安定した仕事と仲睦まじい家族

- ・なるべく日本に関する仕事をしたいです。
- ・中国で大学の日本語の先生になりたい。
- ・外務省
- ・大学の先生になりたいです。日本に留学したいです。
- ・園芸の仕事をしたいです。呑気な生活を楽しみたいです。
- ・日本語の先生になりたいです。
- ・将来は日本語を教える先生になりたい。それに向かって今がんばっている。
- ・日本で中国語を教えると思います。

7 結婚についてはどう考えていますか。

- ・28歳前後のことだと思う。心優しい人で進取心に富んでいる人と一緒にいたい。子どもは一人がいい。
- ・今まで考えていません。
- ・27歳。医者。(子どもは)一人。
- ・有責任感、比我大、頭がいい、優しい人、ハンサム
- ・27歳の時、朗らかで明るい男と結婚したいです。
- ・26歳の時、心の優しい、そして前向きな男の子と結婚したいです。中国で一人子の政策がありますが、やはり二人の子どもを生む方がいいと思います。
- ・25歳の時、学問がある人と結婚したいです。子供の方は一人がいいと思います。
- ・今22歳で、まだ結婚について詳しい考えたことがない。
- ・28歳ぐらいで、親切な人と、子供はおんなのこでもおとこのこでもいいです。

8 どんな先生になりたいですか。

- ・日本語の先生です。専門は日本語だから。
- ・英語、経済成長を続けること
- ・学生が好きな先生、学問があってやさしい先生になりたいです。
- ・視野が広くて、知識が豊かで、やさしい先生になりたい。

中国のみなさんへのアンケートまとめ・湖北民族学院

0 今、中国で流行っているものは何ですか。

- ・映画と京劇
- ・スポーツはバスケットボールと卓球と思います。
- ・出国することです。
- ・日本と韓国のテレビや映画がはやっています。
- ・いろいろ流行っているのですが、外国語の方には日本語、韓国語などが流行っています。
- ・旅行です。
- ・ポップ音楽、日本の漫画、ドラマ
- ・韓国ドラマ
- ・日本語の勉強
- ・旅です。
- ・音楽、英語、日本語、中国文化
- ・周杰倫、方大同、漫画、快女、仇酷、交友、博客、QQ空間

1 あなたは、中国のいいところはどんなところだと思いますか。

- ・風景

- ・中国の民族文化だと思います。
- ・いいところはたくさんあると思います。特に国際意識が高くなることだと思います。
- ・中国人は友好だと思います。
- ・上海と思います。
- ・中国の伝統文化は豊かです。経済は速く発展しています。
- ・中華料理
- ・大連
- ・アモイ、北京
- ・今、中国の経済、文化などが速く発展している。いいところは上海だと思います。
- ・北京的建设、对待世界的態度
- ・気候がいろいろ、四季がはっきり分かれている、動植物が豊富、料理がおいしい。

2 あなたは、中国で問題だと思っていることは何ですか。

- ・人口が多すぎる。
- ・環境問題……
- ・中国で少数民族問題はまだ深刻だと思います。
- ・環境問題、人口問題があります。
- ・お互に理解のもとで交流することだと思います。
- ・人口はちょっと多いです。自然資源はだんだんすくなくなりました。
- ・汚染
- ・環境汚染
- ・中日の交流
- ・チベット問題とウイグル問題などの民族問題だと思います。
- ・中日交流
- ・経済の発展のバランスが取れていない。でも私は希望は捨てていない。

3 あなたは、日本のいいところはどんなところだと思いますか。

- ・京都と東京などの環境がとてもいいです。
- ・日本の民族文化と日本人民
- ・日本の環境保護はいいし、研究態度はまじめだと思います。
- ・日本は文化についての祭りが重視しています。
- ・たぶ日本の映画のため、私にとって日本人たちのしんけんな態度が一番いいと思います。
- ・日本の教育制度はいいと思います。日本文化はいいと思います。
- ・自然環境
- ・東京
- ・北海道、大阪
- ・北海道だと思います。
- ・北海道、東京、環境好、経済発展
- ・美しい、親切、食べ物がとてもおいしい

4 あなたは、日本で問題だと思っていることは何ですか。

- ・資源の問題
- ・中国もその問題があって、両国の人民もっと交流して、互いに了解することが必要だと思います。
- ・若者は日本の伝統文化を学ぶことが大切で、注意される必要があると思います。
- ・少子化と校内暴力事件という問題があるだと思います。

- ・少子化のことだと思います。そのほか、自殺、いじめなどのこともあります。
- ・人口は多いです。
- ・中国との誤解が多い。
- ・資源不足
- ・歴史の態度
- ・少子化問題だと思います。
- ・歴史
- ・中国に対して全面的に理解できていない。

5 あなたは、日本についてどんなことを知っていますか。

- ・日本の漫画、日本の映画
- ・日本の文化とかちょっと知っています。
- ・いろいろ知っていますが、深く勉強していません。
- ・日本の有名な所、桜、富士山、文化祭を知っています。
- ・温泉がたくさんあります。うらやましいです。
- ・日本の文化は大体知っている。でも、もっと勉強したいんです。
- ・日本料理、ドラマ、環境がいい。
- ・科学技術が発展している。
- ・日本の祭り、例えば相扑
- ・日本の経済が発達だったことと知っています。
- ・日本の歴史、文化は少し知っています。

6 将来の夢は何ですか。(どんな仕事を望みますか。どんな生活を望みますか。)

- ・作家になりたい。
- ・中国と日本の友好について
- ・日本へ留学することは私の夢です。日本から帰国してから大学の教師になりたいです。
- ・将来、企業家になりたいです。それで、毎日楽しく。
- ・日本語の先生になりたいです。
- ・今は日本語の教師です。将来は、日本へ行って、日本の文化、経済などをもっと勉強したいです。
- ・日本へ行きたい。
- ・通訳になりたいです。
- ・日本語の先生になりたい。
- ・日本語研究に進んでいるという夢です。
- ・日本の文化を勉強
- ・中日の交流を促進する外交官

7 結婚についてはどう考えていますか。

- ・24歳ぐらい。良い人。私の子どもは軍人になりたいです。二人です。
- ・30歳ぐらい結婚したくて、二人の子供がほしいです。
- ・27、28歳ぐらい。まじめな男と結婚したいです。一人の子どもあれば一番幸せなことだと思います。
- ・もちろん好きな人と結婚して、優しくて家庭に対しています。28歳ぐらい。
- ・28歳ぐらいはいいと思う。それに、自分より3歳ぐらい高い人で、一人の子供だけでいいです。
- ・28歳で結婚すればいいと思います。子供なら二人と思います。
- ・26歳、中国人と、二人。
- ・30歳です。二人。

- ・25歳ぐらい、優しい人、日本人。
- ・私は独身の生活を過ごしたいんです。
- ・三十
- ・27歳、優しくて分析能力があり、同時に責任感があり、社会性もある人。子供は一人がいい。

○どんな先生になりたいですか。

- ・優しい先生になりたいです。
- ・日本の学生に中国文化や中国語についての先生になりたいです。
- ・子供について、教学方法と人生を教えることができる先生になりたいです。
- ・先生として、優しくて、まじめな先生になりたいです。豊かな知識を持っている先生になりたいです。
- ・先生になりたくありません。
- ・日本語先生になりたいです。
- ・大学の日本語先生になりたいです。
- ・今は先生になりたいとは思っていません。でも将来は分かりません。今は、知識を豊かにして学生生活を楽しくやっていきたいです。

中国のみなさんへのアンケートまとめ・協力隊

0 今、中国で流行っているものは何ですか。

- ・分かりません。
- ・韓国のもの（服も髪型もドラマも）
- ・喜羊羊（子ども大好き、今年の子どものサンバイザーは全部、喜羊羊）
- ・喜羊羊（多分……。）アニメです。

1 あなたは、中国のいいところはどんなところだと思いますか。

- ・大きくて、いろいろな世界があること。
- ・何に対しても寛容なところ。一度仲良くなると、どこまでも優しいところ。
- ・時間があると外に出て近所の人とおしゃべりをしたりするところ。ホノボノしてます。あと、お年寄りに優しい。バスの中で必ず席ゆずる。
- ・様々な民族と文化が入り交じっているところ。

2 あなたは、中国で問題だと思っていることは何ですか。

- ・環境問題（ごみ、大気）
- ・道徳!!!教育!!!
- ・タンを吐く。（あのカー、ペ!!!の音には慣れない。）
- ・ごみのポイ捨てやタン吐き、割り込みなど、道徳観念。

3 あなたは、日本のいいところはどんなところだと思いますか。

- ・きれい
- ・道徳!!!衛生観念!!!
- ・改善しようと考え、努力するところ。
- ・きれい。人が押しつけがましくない。外国文化に対して寛容。

4 あなたは、日本で問題だと思っていることは何ですか。

- ・家族のきずなが中国や韓国に比べて弱い（弱いように見える）。
- ・平和ボケしていて、一生懸命でないこと。海外に興味を持たなくなっていること。
- ・近所づきあいが薄いところ。

- ・政治。世界に出て行こうとする若者が他国に比べて少ない様に感じられる。
- 5 あなたは、日本についてどんなことを知っていますか。
- ・わび、さび
 - ・日本語教師として、文化や文学、歴史などは勉強する様にしている。
- 6 将来の夢は何ですか。(どんな仕事を望みますか。どんな生活を望みますか。)
- ・日本語教師、もしくは留学生支援
 - ・勉強を続けたい。
 - ・幸せな家庭、幼稚園、保育園の先生。
 - ・もっと広い世界を見ること。
- 7 結婚についてはどう考えていますか。
- ・35歳ぐらいで、国際色豊かな人と、子供は2人？
 - ・タイミングがいい時にしたい。
 - ・結婚はしたい。30代前半ぐらいまでできたらベスト。
 - ・タイミングの合う時に。国際色豊かな人と。子供は数人。
- 8 どんな先生になりたいですか。

国際理解、開発教育授業案 (9/24)

「国際理解・四川大地震の時に ～私達にできること～」

アイスブレイク「自己紹介・名前と一言(担任佐久間が中国に行ってきたことについて)」

※人前で話すことに慣れさせるとともに、これから一緒に学習する仲間について理解する。

1 募金について考える。

○どんなときに募金をするか振り返る。

- ・地震や台風などの自然災害
- ・戦争などの災害
- ・困っている人がいる時

※世の中には図らずも困っている人が大勢いることを確かめる。

2 四川大地震について知る。

○インターネットで調べてみよう。

- ・場所
- ・日時
- ・被害の大きさ

※四川大地震の概略を理解させる。

3 四川大地震の際に日本が取った行動について知り、感想を持つ。

(1) 医療班

心に残った言葉や心に残ったことをメモさせる。

(2) 捜索班

心に残った言葉や心に残ったことをメモさせる。

※ワークシートにメモさせる。

4 心に残ったことを発表し合い、話し合う。

○グループで話し合う。

○全体の場で発表し合い、話し合う。

※率直な考えを尊重する。担任も話し合いを聞き、一人一人のとらえの状況を把握する。

全体の場では、一人一人の考えが全体の考えに生きるように配慮する。

5 そういう事態が起こった時は、どう行動すべきか。

- ・募金をする。
- ・お互いに助け合う。
- ・できることをする。

※人ごとではなく、その人の立場に立って真剣に考えることが大切なことをとらえさせる。

6 学習のまとめと記念撮影をする。

7 参観者からのお話を聞く。

メモ

国際理解、開発教育授業案 (9/24)

「 国際理解・四川大地震の時に ～私達にできること～ 」

アイスブレイク「自己紹介・名前と一言（担任佐久間が中国に行ってきたことについて）」

1 今までどんなときに募金をしてきましたか。それはなぜですか？

2 四川大地震について知ろう。

3 四川大地震の際に日本が取った行動について知り、感想を持とう。

(1) 医療班…心に残った言葉や心に残ったことをメモしよう。

(2) 捜索班…心に残った言葉や心に残ったことをメモしよう。

4 心に残ったことを発表し合い、話し合おう。

○グループで話し合おう。

○全体の場で発表し合い、話し合おう。

5 そういう事態が起こった時は、どう行動すべきか考えてみよう。

6 学習のまとめと記念撮影をする。

7 参観者からのお話を聞く。

〈学習後の感想〉

今日は、おいでいただきありがとうございます！
一緒に中国のことを考えてみましょう！

中国や中国人に対するイメージを書いて下さい。

氏名 ()

な国、
中国に注目！

はじめに

- 上の□の中に、いくつでも思いつくだけ書いて下さい。
- なぜ、中国に？

……JICA（独立行政法人 国際協力事業機構）の「教師海外研修」に応募して、見事(?)選ばれたのです。しかし、旅行が目的ではなく、旅行後の還元（まわりのみなさんに伝える）が目的です。

中国のどこを回ってきたのか、どんなことを感じてきたのか？短い言葉で表現します！
北京（8/3～8/5）

- ① JICA中国事務所 …………… 国際協力、人間愛、隣人愛
- ② 北京市下水処理場…………… 水環境、各国の協力
- ③ 中国で活動するボランティアのみなさんと交流
…………… 現実と向き合う、着実に努力する人間のすばらしさ
- ④ 視覚障害者のみなさんのために…………… 離れているから理解が進まない、
(視覚障害者も) 自分のできることを責任をもって
- ⑤ 労働者の安全を守るために日中の協力
…………… 安全衛生意識は小中学生のうちから
- ⑥ 壮大な中国文化…………… 日本とのつながり

武漢（8/6、8/7）

- ⑦ 一石二鳥の植林事業…………… 緑の銀行

宜昌（8/8）

- ⑧ 日本語を学ぶ大学生との交流Ⅰ…………… 教育に対する考えに感動、上手な日本語

恩施（8/9、8/10）

- ⑨ スケール大きな三峡ダム…………… 川を大型船、電源＝発展のため
- ⑩ 中国の看護の向上のために…………… 綿密な計画と日々の「笑顔」。
- ⑪ 日本語を学ぶ大学生との交流Ⅱ…………… 日本や日本語と関わりたい（夢、希望）、一生懸命勉強

上海（8/11、8/12）

- ⑫ リニアに乗って…………… 430km/h、科学技術のすばらしさ
- ⑬ 福島県上海事務所…………… 福島県の外国の窓口
- ⑭ 洋服工場で…………… 社長ご夫妻が私の両親の知り合いだった。不思議な「縁」。

中国のすばらしさ

- エネルギー ・ 交通（車、電気自転車） ・ 生活（朝→夜遅くまで）
- ・ 食文化（素材を生かす） ・ 建設ラッシュ ・ 若者の活躍 ・ 素朴さ、優しさ
- ・ 学生のすばらしさ（明朗活発、明瞭） ※ごみ※われ先に

JICA のみなさんのすばらしさ

- 親切、懇切丁寧 ○時間を生かす ○人材を生かす ○場を逃さない
- 朝早くから夜遅くまで

人間のすばらしさ

- 探求心 ○好奇心 ○開発力 ○貧困の中のたくましさ

感想発表の時間を残して映像の時間にしましょう！

中国や中国人に対するイメージは変わりましたか？授業を参観した感想をお願いします！

中国学習後のアンケート

佐久間先生は8月3日から13日間まで中国に行ってきました。国際協力事業機構（JICA）の企画で、日本の国の世界への貢献の一部を見てきて、日本で生活するみなさんにいろいろなことを伝えるためです。

そこで、中国のお話をたくさん聞いたり、写真やビデオをたくさん見てもらったみなさんの成果を知りたいので、アンケートに協力してね。

- 1 下の地図の中で中国の場所に色をぬってください。（省略）
- 2 中国の大きさは日本の何倍ぐらいの大きさだと思いますか。
- 3 中国の人口は日本の何倍ぐらいだと思いますか。
- 4 日本のいいところはどんなところですか。
- 5 日本で問題だと思うことはなんですか。
- 6 中国のいいところはどんなところだと思いますか。
- 7 中国で問題だと思うことはなんですか
- 8 あなたは佐久間先生から中国についてのお話や写真、ビデオを通して何を学んだ？
- 9 中国について学習してみなさんの生き方や考え方に変化はありましたか？
- 10 これからみなさんはどのように生活していきたいと考えていますか？（国際理解面）

外国のことをしらべよう（中国について調べよう）

氏名	高田 昌幸
学校名	南相馬市立大甕小学校
担当教科名	全教科
実践教科名	総合的な学習の時間
時間数	10時間
対象児童（学年）	特別支援学級 2・4年生 交流学級 4年生
対象人数	特別支援学級 3名（1クラス） 交流学級 31名（1クラス）

関連する学習指導要領の内容と文言

第5章 総合的な学習の時間

第1目標

横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成するとともに、学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的、創造的、協同的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにする。

第3 指導計画の作成と内容の取り扱い 2

(7)国際理解に関する学習を行う際には、問題の解決や探究活動に取り組むことを通して、諸外国の生活や文化などを体験したり調査したりするなどの学習活動が行われるようにすること。

I. 実践授業のねらい

本単元は、総合的な学習の時間を活用し、諸外国のことについて調べ学習を行うことを目的としている。「小学校学習指導要領解説 第1章総説」にもあるように、21世紀の「知識基盤社会」「グローバル化」の社会を生きるこれからの児童・生徒には、異なる文化や文明との共存や国際協力の必要性が一層求められている。これらの資質や能力は、特別支援学級の児童にとっても大切な物であり、彼らの発達に応じて、この能力・資質を育てていくことは、彼らが将来的に自立していく上でも大切なことであると考えている。

本学級は、2年生女子1名、4年男子2名の計3名で構成されている。障害の程度による学習・生活能力の差は大きいですが、日常生活を共にする中でお互いの良さを認め合ったり、助け合ったりする場面が少しずつ増え、学級集団としての意識が育ってきている。ただ、個々の児童については発達の偏りが大きく、特定の事物にしか興味を示さない傾向や、表現方法にこだわりが強く多様な表現ができない傾向もある。

少人数のクラスということもあり、4年生の総合的な学習の時間は2年生の生活単元学習に位置づけて実施している。

通常学級においては、本単元は自分の興味のある国を選択し、その生活や文化に関する内容を調べて、自分なりの表現を工夫して発表するという構成を取ることが多い。しかしながら、本学級は特別支援学級ということもあり、他国に関しての地理的理解や文化的理解が不足する面も多く、国際理解に関する内容を指導する際は、初歩的な面からのアプローチが必要である。また調べ学習についても、図書やインターネットを活用し自分一人で調べるといったスキルはまだ十分身につけていない状態にある。そこで今回は、特定の国を調べる前に世界地図を見ながら「世界の国旗調べ」に取り組みさせることで、世界にはたくさんの国があることを理解させたい。その上で、担任の中国での研修を生かし、その写真や記録を提示し活用させることによって中国に関しての興味を高め、調べ学習に取り組みさせたいと考えた。

また、本単元を進めるに当たり、協力学級である4年生の総合的な学習の時間と同調して学習を進め、自己の研修の成果をより多くの児童に知ってもらおうとともに、交流学习とすることで本学級の児童が、共に学び合いながら活動に取り組めるようにした。

このような取り組みを進めることによって、本学級の児童に世界にはいろいろな国があり、多くの人々が多様な伝統・文化や歴史、様々な願いを持ちながら暮らしていることをとらえさせたいと考える。

そして、彼らなりの国際理解に関しての課題意識と解決のための意見を育てていきたいと考えて今回の授業を設定した。

Ⅱ. 授業の構成（総時数 10時間）

時間	小単元名	授業のねらいと内容 ※○は授業のねらい < >は教材
プレ 1	アンケート調査 4・5・6年生	○中国（中華人民共和国）への興味・関心を高める。 ・中国についての児童の意識を知る。 ・児童が見てきてほしいことを知る。
1	たくさんの国を見つけよう	○世界にはたくさんの国があることを知る。 ・世界地図を見て、世界の国々の位置関係を確認する。 ・地図帳で国調べ競争をする。〈地図帳〉
2	国旗を調べよう	○世界の国旗調べをする。〈辞書びきえほん〉 ・国旗と国名を調べ、国旗カードを作る。
3	ポスターをつくらう	○国旗カードをまとめてポスターを作る ・国旗と国名を対応させながら、国旗のポスターを作る。
4	中国のことをしらべよう	○世界地図上の中国の位置を確認する。〈自作掲示〉 ・資料を基に、中国で有名な物を確認し、ノートにまとめる。 (中国の地理的・文化的な特色について興味を持たせる。) 〈体験取材！世界の国ぐにー11 中国ポプラ社〉
5	中国のことを知ろう (交流学习)	○プレゼンテーションを見て、中国についての理解を深める。 ・事前のアンケートの結果と比較しながら、プレゼンテーションをみることで、謝ったイメージの訂正や理解不足の点を確認する。

5	中国のことを知ろう (交流学习)	(中国の人々の生活や願いについて興味を持たせる。) ＜自作 パワーポイント資料＞
6	中国について調べよう 1/2	○教室の掲示物や本などを参考に、中国について調べたいものを見つける。＜図書館の活用＞ ・児童の興味を尊重しながら、興味をふくらませられるよう支援する。
7	中国について調べよう 2/2	○自分の見つけた調べたいものについて、より詳しく調べる。 ・学校図書館の本やインターネットで調べる。 ＜インターネット＞
8	調べたことをまとめよう 1/2	○調べたことをまとめる。 ・どんな形式でまとめるか考え、工夫して表現する。
9	調べたことをまとめよう 2/2	○調べたことをまとめて、自分の感想を持つ。 ・発表に際して、自分の考えやわかったこともまとめさせる。
10	発表会をしよう	○調べたことをまとめて、発表することができる。 ・調べたことを、感想も交えて発表できる。 ・オープンエンド型の思考を目指す。

Ⅲ. 授業の詳細

プレ1 時間目

〈事前アンケート〉

中国に行く前に本校の4・5・6年生の児童に中国についてのアンケート調査を実施した。アンケートの結果、中国という国名は全員の児童が知っているが、行ったことのある児童はいなかった。

中国というのをイメージしますかという問いに対して、全体で一番多かったのが「毒餃子」という回答で、以下「わからない」「中華料理」「無回答」「餃子」の順となった。

一番の「毒餃子」はアンケート調査を実施した時期が、7月であったため、まだ毒入り餃子事件の印象が残っていたためと思われる。そして2番目・4番目に多かった「わからない」「無回答」を合わせると26%の児童が中国に関しての関心が薄いことがわかる。

さらに「毒餃子」同様の「段ボール入り肉まん」をあげているものや、韓国の物産である「キムチ」をあげている児童もいた。

学年で比較すると、4年生は「わからない」「無回答」の児童が合わせて55%もいる。5年生では「無回答」のみ5%、6年生はどちらも0%であり、かつ6年生では「西遊記」「カンフー」「漢字」などの中国文化についての内容をあげる児童も見られた。同様に「毒餃子」は4年生が7%なのに対して、5年生43%、6年生36%と高学年の割合が高い。これらの結果から、高学年になるほど外国に関しての知識や関心も高まるものと考えられるが、この時期に偏った情報だけで中国に対しての知識形成がなされることがあるとするならば、非常に残念なことであり、改善しなければならないと思う。

〈中国についてのアンケート結果 抜粋〉

中国についてのアンケート2009年7月

1. 中国を知っていますか。

4年生31人				5年生32人				6年生21人				合計84人			
はい		いいえ		はい		いいえ		はい		いいえ		はい		いいえ	
31人	100%	0人	0%	32人	100%	0人	0%	21人	100%	0人	0%	84人	100%	0人	0%

2. 中国に行ったことがありますか

ある		ない		ある		ない		ある		ない					
0人	0%	31人	100%	0人	0%	32人	100%	0人	0%	21人	100%				
								0人		0%		84人		100%	

3. 中国というと何をイメージしますか(複数回答)

	56人		42人		25人		123人	
(1)餃子	8人	14%	2人	5%	0人	0%	10人	8%
(2)キムチ	2人	4%	1人	2%	0人	0%	3人	2%
(3)ラーメン	2人	4%	0人	0%	0人	0%	2人	2%
(4)中華料理	3人	5%	10人	24%	4人	16%	17人	14%
(5)毒餃子	4人	7%	18人	43%	9人	36%	31人	25%
(6)辛い物	2人	4%	0人	0%	0人	0%	2人	2%
(7)環境汚染	1人	2%	0人	0%	1人	4%	2人	2%
(8)洋服	1人	2%	0人	0%	0人	0%	1人	1%
(9)いろいろ問題がある	1人	2%	0人	0%	0人	0%	1人	1%
(10)稲がたくさんある	1人	2%	0人	0%	0人	0%	1人	1%
(11)わからない	19人	34%	0人	0%	0人	0%	19人	15%
(12)無回答	12人	21%	2人	5%	0人	0%	14人	11%
(13)日本の近くにある			1人	2%	0人	0%	1人	1%
(14)オリンピック			5人	12%	0人	0%	5人	4%
(15)三国志			1人	2%	1人	4%	2人	2%
(16)パンダ			2人	5%	0人	0%	2人	2%
(17)西遊記					1人	4%	1人	1%
(18)カンフー					1人	4%	1人	1%
(19)段ボール肉まん					2人	8%	2人	2%
(20)漢字					5人	20%	5人	4%
(21)市場					1人	4%	1人	1%

その他、中国で見てきてほしいことの1番が「中国人の生活」以下「中華料理・食べ物」「中国の小学生の勉強の様子」であった。ここからも、児童は中国や中国人について興味がないのではなく、児童にとって興味の起こるような情報が、身の回りのメディアから流れてこないということが推測される。中国に限らず、日本のメディアの傾向として海外に関する情報が少ないように感じる。お笑いや芸能関係の情報ばかりで、リアルな世界の現実が全く見えてこないのではなかろうか。余談になるが、アンケートを採りに行った学年の児童から「先生無事で帰ってきてね。」と声をかけられることが多かった。アンケートには書いてないものの、中国＝危険な国というイメージを持っている児童も多いと感じた。

1 時間目 たくさんの国を見つけよう

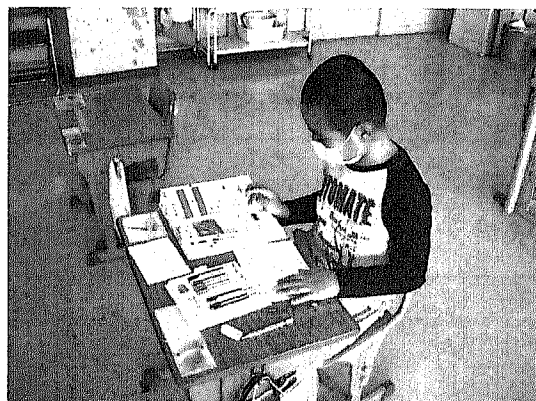
1. 帝国書院の地図帳の世界地図を見て、世界にはたくさんの国があることを知るようにさせた。児童は自分の知っているアメリカやインド、イギリスなどを見つけて喜んでいて。逆にカナダはどこですか？フランスはどこですか？と質問すると、いっそう一生懸命に地図帳から国を見つけようとしていた。
2. 地図帳に慣れてきたところで、児童だけで国調べ競争を行い。自分の言った国を他の児童が見つかる競争を行った。中にはアフリカの国を問題に出す児童もいて、なかなか見つけられずに困ってしまうこともあったが、ヒントとして何州にあるかを言わせることで、見つけられるようになり、喜々として競争していた。
3. この時に、担任から「中国はどこですか」と問題を出し、中国が日本の近くにある大きな国であることを印象づけておいた。

2 時間目 国旗を調べよう

1. ひかりのくにの「辞書びきえほん国旗」を使って、世界の国旗調べをした。国名から国旗を調べ国旗カードを作るのだが、カタカナの習熟と調べ学習の初歩的な練習を兼ねて、はじめはアのつく国を探してカードに国名をカタカナで書かせた。次に選んだ国の国旗を同じカードの裏面に書かせた。
2. イ・ウ・エ…と国の名前を探し国旗カード作りを進めた。作業に時間がかかることもあって、少ない児童だと5～6枚しか作れなかったが、国旗に興味を持ったようで休み時間も国旗カード作りをして遊ぶようになった。その結果互いに重複した国もあったが、80枚ほどの国旗カードを作ることができた。
2. 興味深いのは児童が国旗作りをして遊ぶようになると、国旗の国当てクイズを自分たちでできるようになり、やがては他の先生の前で、これは「コスタリカ、これはギニア」というように国の名前と国旗を覚えて言うことができるようになった。その際にも担任が意図的に中国の国旗を提示し、辞書びき絵本の中国のページを見ることで国の特色や国旗のいわれなどに目を向けるよう配慮した。



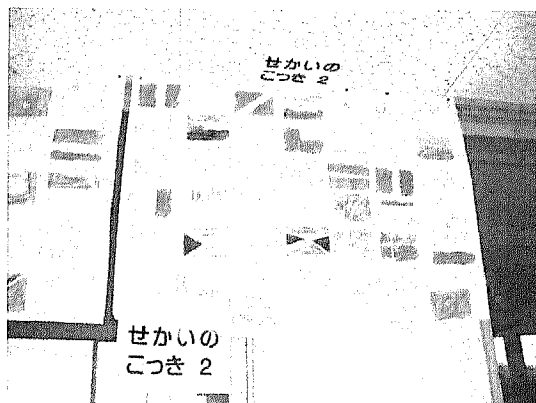
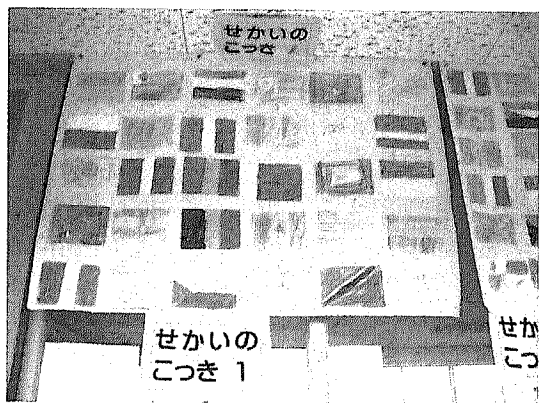
国旗カードを作る



辞書引きえほんで調べる

3 時間目 ポスターをつくらう

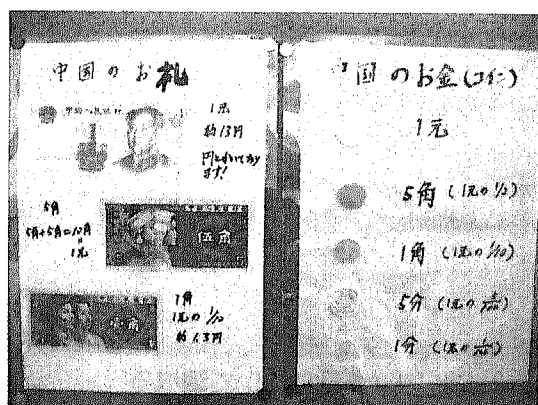
1. 国旗カードをまとめてポスターにした。国旗と国名が対応するように、裏の国名を台紙に記入してからカードを張らせるようにした。その際重複している国を見つけさせ、重ならないようにした。作品は廊下に掲示し他の学年の児童に見せることで、他の児童の興味関心を引くようにした。



できあがった国旗カードでポスターを作る

4 時間目 中国のことをしらべよう

1. この時期、協力学級の4年生が総合的な学習の時間で「外国のことを調べよう」という単元で、自分の興味のある国についての調べ学習を行っていた。担任のところにも、中国について調べたグループが様々な質問をしに来ていた。そこで、自分の学級の児童に自分たちもどこか一つ国を選んで調べ学習をしようと働きかけたところ、特別支援学級の児童も中国について調べたいと言うようになった。
2. ポプラ社の「体験取材！世界の国ぐに-11」を使って、漠然とではあるが中国の概要を学んだ。さらに、担任が中国で撮影してきた写真資料を提示して、中国の町の様子や食べ物について説明した。ここで児童からは、中国の食べ物にはどんなものがあるのかと言った意見や、中国にはどんな動物がいるのかという意見が出された。ただ本書は、中国の子供の生活についての記述が中心であるので、児童からはもっと中国について知りたいという希望が出された。協力学級の方でも中国の話が聞きたいとの要望があったので、次時は担任が両クラスを併せて中国の話をする事とした。
3. 中国研修の際の写真や、貨幣などの資料は、普段から自分の教室の廊下側の壁に「国際理解教育」に関する資料として掲示してあり中国の料理についても掲示してあったので、これが自分の学級の児童の興味を引いた可能性もあるが、自分で調べたいことを希望したので、意欲を継続させたいと思った。



掲示資料 (中国のお金)



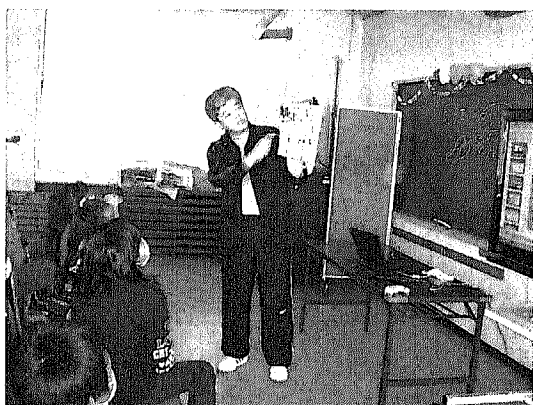
掲示資料 (中国の食べ物)

5 時間目 中国のことを知ろう

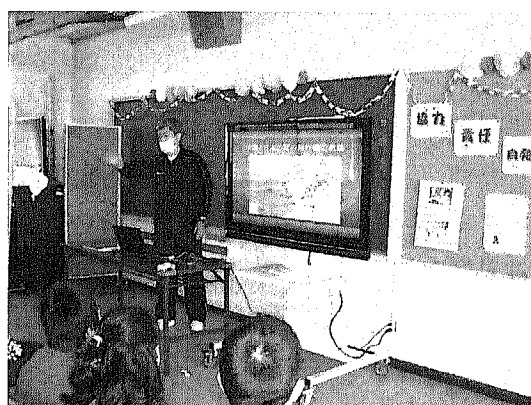
1. 担任が中国で撮影してきた写真を元にプレゼンテーションを作成し、これを見ながら、特別支援学級の児童と交流学級の4年生と一緒に中国について学ぶ時間を設定した。交流学級の4年生は、以前の中国に関するアンケートで、中国についてのイメージを問う質問に対して「わからない」「無回答」であった児童が55%もいた。この児童たちが中国について悪いイメージを持ちそれが固定化してしまう前

に、ぜひとも私の見た中国の姿を聞いてほしいと考えた。タイトルは「近くて遠い国…中国」として隣の国なのに、中国のことをよく知らないという事実を意識づけようとした。

2. 一通り説明が終わったところで質問タイムを設定した。ここでも、「中国で危ないと思ったことはありませんでしたか。」「中国の食べ物を食べて、気持ちわるくなりませんでしたか。」と言った質問が相次いだ。質問に対しては、自分の体験上、危険なことは無かったことや中国の食べ物については、油が強く日本人に合わないかもしれないが、危険とは思わないことなどの話をした。加えて、中国で買い物をしてもお釣りをごまかされたことも無かったし、だまされたことも無かったことなどを話し、自分が体験した事実を通して、誇張の無い中国の姿を伝えた。事後の感想で4年生の一人が「中国人もがんばっているんだ。」「中国っておもしろそう。」と言ってくれたのが何よりの感想であった。



中国についての説明



質問タイム

6時間目・7時間目 中国のことを知ろう

1. できるなら中国の環境問題や民族問題等をテーマにしたかったが、4年生、ましてや特別支援学級の児童には難しい状況がある。彼らなりの興味から出発して、最後には現状より一でも段高く成長して欲しいと考え、当初のテーマのまま調べ学習を行った。



地図帳で中国の動物を調べる



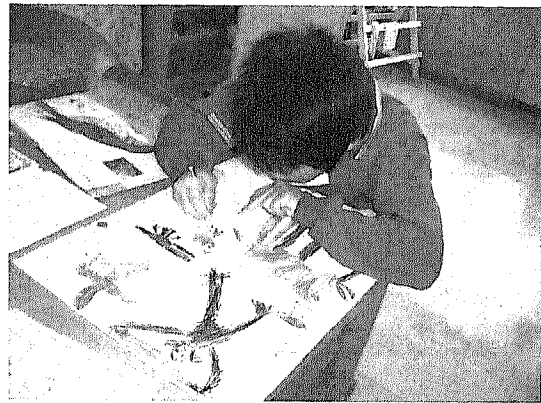
中華料理について調べる

8時間目・9時間目 調べたことをまとめよう

1. 1人の児童は「中国のめずらしい動物」について、もう一人の児童は「中華料理について」調べて新聞にまとめた。「珍しい動物」については図鑑にもあまり載っておらず、インターネットで担任が調べたものを利用してまとめさせた。「中華料理」については、担任の掲示物のほか、食べ物の図鑑やインターネットも活用して調べさせた。もともと動物に興味を持っていたこともあり「珍しい動物」について調べた児童はあっという間に4つ切り画用紙3枚もの新聞を完成させた。



画用紙にまとめる



珍しい動物の絵を描く

10時間目 発表会をしよう

1. 作成した新聞を使って発表会を行った。担任も含め4名での発表会と寂しい発表会であったが、質問をし合うなど熱心に活動できたのでよかったと思う。機会があれば、朝の会や昼の放送などで全校生徒の前で発表させたいと思う。二人とも中国には日本に無いものがある(いる)。ということに感想に書いていた。担任からは「どうして中国の珍しい動物の数が減っているの。」という質問で、環境問題等についても考えて欲しかったのだが、答えることはできなかった。「中国について自分はこんなことを知っている。」ということに自信に、さらに多くのことを知ろうという意欲と、なぜなんだろうと疑問に思う気持ちを持たせたいと思った。



発表の様子



学習発表会での演奏

IV. 実践の成果

子どもたちは自分の知らなかった中国について、大いに興味を持って学習に取り組んでくれた。学習のレベルは決して高くはないものの、「わからない」「無回答」というレベルを脱して世界と自分との関わりを考え、世界の今の姿を知ろうとする契機となってくれたものと思う。直接的な成果として、4年生児童の一人は世界の国旗と国名をほとんど覚え、国旗当てクイズを全問正解させては交流学級の児童を驚かせていた。これもこの授業が契機となったことである。今回、教師海外研修で中国を訪れる機会を与えていただいたが、実際の中国を体験した後で日本のメディアから流れる中国についての報道を見てみると、

その多くは政治・経済に関わる分野がほとんどで、なおかつ中国に関して否定的な論調を持ったものが多いように感じる。毒入り餃子事件のように意図的に一つの事件のみが誇大に報道された結果が、本校児童のアンケートのように小学生にまで影響を与えているのではないだろうか。これからのグローバル社会に生きる人間として、メディアの一方的な情報を鵜呑みにせず、自分の体験や他の情報を得て総合的に判断できるようなスキルを自分も含めて児童に身につけさせたいと思う。

V. 実践との関わりについて

私は、学級担任として普段から、他国の文化を理解するためには自国の文化を知ることが大切であると考え和太鼓演奏に取り組みせたり、伝統的な遊びのお手玉や剣玉をさせたりしている。かつて自分が在ポーランド日本国大使館付属ワルシャワ日本人学校で勤務した際、現地の中学・高校、大学との交流活動を企画したことがあった。子どもたち自身が、日本の伝統文化としての和太鼓・剣玉・お手玉・習字・折り紙等を熱心に練習し、交流の際にそれを披露し、ポーランドの児童生徒に教えることで文化交流を図ってきた。これからの時代に生きる児童にも、他国の文化理解と同時に、積極的に自国の文化を学んで欲しいと思う。

VI. 課題

今回の海外研修を実際の学校の子どもたちに、授業という形で還元しては見たが、自己の知識の伝達が主となってしまった感がある。児童に直接1次情報にアクセスさせようとしても、窓口のない状況では、授業への外国人の参加要請も難しい。今後は、積極的に在留外国人とも関わるなどして窓口作りに励みたいと思った。また、授業を構成する上では開発教育の手法を学び、様々な教材を活用することで、参加型のワークショップを体験させるなどして授業の改善を図っていききたいと思う。特に外国を知る活動から、いかに開発教育へと児童の意識を高めていけばよいのかを、実践を積み重ねることでステップアップを図っていききたい。ただ、今回の研修国の中国はGDP上では日本を上回っている国である。農村部と都市部の生活水準の格差が激しく、大都市ではポルシェが走り回り、田舎では依然として牛車や馬車が走っている国。世界第2位の二酸化炭素排出国でありながら、依然として開発途上国であると言いつける国。このような混沌とした中国を、途上国としてとらえてよいのか。またそのような論調で開発教育の対象として良いのかに疑問が残った。都市戸籍と農村戸籍の問題など政治的な問題もあり、一般的な途上国の貧困問題について考えるようなスタンスではとても臨めない難しい国であると感じた。

VII. 参考資料

- 辞書びき絵本 国旗 陰山英男 監修 ひかりのくに
- 体験取材！世界の国ぐにー11 中国 ポプラ社
- 平成20年度 教師海外研修報告書

少数派の気持ちを考えよう

氏名	村松 和弘
学校名	河沼郡柳津町立柳津中学校
担当教科名	国語科
実践教科名	学級活動 (国際理解)
時間数	1 時間
対象生徒 (学年)	3 学年 2 組
対象人数	17 名

I. 授業実践のねらい

本題材は、学習指導要領学級活動の活動内容(2)適応と成長及び健康安全(4)「望ましい人間関係の確立」に基づいて設定したものである。中学3年生は、卒業後そのほとんどが高等学校進学を考えている。高等学校へ進学すると生活範囲の広がりとともに様々な人間関係が生まれてくる。そこで少数派が差別や排除の対象にならないようにするための方策を身近な人間関係を通して考えることでよりよい人間関係を形成する力、自己表現力、他者への思いやる心を養いたいと考え、この題材を設定した。

対象学級は男子11名、女子6名の少人数の明るい学級である。小学校から全く同じ集団で学校生活を送っているためそれぞれが自分の位置や役割を分かっている、人間関係も固定化している。

英語科ではALTとの授業もあったり、昨年度町の海外派遣研修でオーストラリアに行った生徒もいるので異文化に対する理解もある程度はある。しかし、日頃の生活などでは、少数派に対する偏見や排除と受け取られる言動もみられる。

本題材を取り上げるにあたって、次の点に留意して指導したい。文化や個性、意見の多様性の尊重は、国際社会が健全に成立するための基本であること。しかし私達は知らず知らずのうちに多数派の論理、数の暴力に関与していることがあること。そこで本時は中国での教師自身の体験をもとに、少数派はどのような気持ちでいるのかを実感させたい。

II. 授業の詳細

段階	学 習 活 動	○ 指導上の留意点
導入	<ol style="list-style-type: none">1 教師が中国で経験したことを聞く。<ul style="list-style-type: none">・言葉が通じなかった時、自分が少数派だと知り、孤独に感じたこと。・相手に伝えようと必死になると、相手も分かろうとなってくれて嬉しかったこと。2 今日の目標を聞く	<p>○ 生徒がイメージしやすいように、写真やDVDを使う。</p> <p>少数派の気持ちを知り、少数派の人達にどう接していくかを考えよう。</p>

展開	<p>3 ルールの説明を聞き、「多数派、少数派①」の活動を行う。</p> <p>○全員で丸く円になり、ひとり1枚カード（資料）を配る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 5px 0;">資料</div> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 50%; text-align: center;">(多数派のカード)</th> <th style="width: 50%; text-align: center;">(少数派のカード)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>1 ウハウハ うれしくてびよんびよん飛び跳ねる</p> <p>2 クスクス うれしくてにこにここと隣りの人の手を握る</p> <p>3 ンゴongo 不思議に思って首をかしげる</p> <p>4 シラシラ 違う行動をしている人を指して笑う</p> </td> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>1 ウハウハ 困って頭をかく</p> <p>2 クスクス 困惑して、引っ込みじあんに手を引っ込める</p> <p>3 ンゴongo 違う行動をしている人を見つけて指を差す</p> <p>4 シラシラ しゃがみ込む</p> </td> </tr> </tbody> </table> <p>○ 教師はカードの4つの4文字言葉のうちの1つを選んで読み上げる。</p> <p>○ 生徒はその言葉の横に書いてある指示に従って行動する。</p> <p>○ 4文字言葉を順次変えて読み上げ、その言葉の指示に従って行動する。</p>	(多数派のカード)	(少数派のカード)	<p>1 ウハウハ うれしくてびよんびよん飛び跳ねる</p> <p>2 クスクス うれしくてにこにここと隣りの人の手を握る</p> <p>3 ンゴongo 不思議に思って首をかしげる</p> <p>4 シラシラ 違う行動をしている人を指して笑う</p>	<p>1 ウハウハ 困って頭をかく</p> <p>2 クスクス 困惑して、引っ込みじあんに手を引っ込める</p> <p>3 ンゴongo 違う行動をしている人を見つけて指を差す</p> <p>4 シラシラ しゃがみ込む</p>
	(多数派のカード)	(少数派のカード)			
<p>1 ウハウハ うれしくてびよんびよん飛び跳ねる</p> <p>2 クスクス うれしくてにこにここと隣りの人の手を握る</p> <p>3 ンゴongo 不思議に思って首をかしげる</p> <p>4 シラシラ 違う行動をしている人を指して笑う</p>	<p>1 ウハウハ 困って頭をかく</p> <p>2 クスクス 困惑して、引っ込みじあんに手を引っ込める</p> <p>3 ンゴongo 違う行動をしている人を見つけて指を差す</p> <p>4 シラシラ しゃがみ込む</p>				
<p>4 ルールの説明を聞き、「多数派、少数派②」の活動を行う。</p> <p>○ 生徒一人を選んで、ALTに早口で話しかけてもらい、他の生徒は話の内容が分かっている振りをしてうなづく。</p>					
終末	<p>5 活動を振り返り感じたことをワークシートに記入した後、班の中で意見を交流し、代表生徒が発表する。</p> <p>6 自分が多数派だったら、少数派の人達にどう接するかを発表する。</p> <p>○ 活動を通して感じたことや思ったことを素直に表現できるように声をかける。</p> <p>○ 発表しなかった生徒には、ワークシートにコメントを付けるなどして賞賛し、自信を持たせる。</p>				

Ⅲ. 授業の成果と課題

(1) 成果

- 教師の中国での体験は、写真などの資料を用いたこともあり、導入には有効的だった。
- 活動がゲーム形式だったので、生徒達は意欲的に取り組むことができた。
- 主な生徒の感想は次の通りである。

「人と違うことを笑うことはいけないことだとわかっていても、多くの人がしていたり、指示されたりしたのでその通りにしてしまった。多くの人が同じだと自分達が正しいと思ってしまう。」

「自分と違う行動をしている人が多かったので、不安になった。」

「最初は楽しかったけど、違う行動をしている人を笑うのが何だか嫌だった。

「ALTの先生が話していることは全然わからなかったのに、周りの人達は分かってるみたいでどうして自分だけわからないんだろうと落ち込んだ。」

「先生が中国で言葉が分からなくて孤独を感じたという気持ちが少しわかった。」

「多数派がいつも正しいとは限らないから、少数派の人達の考えもきちんと聞くようにしようと思った。」

「少数派の人達の不安な気持ちをなくすようにこれからは優しく接していきたい。」

「多数派とか少数派とか関係なく、お互い協力し合っていくことが大切。」

(2)課題

- 単発の授業では生徒の変容までは難しいので、教科や道徳などの時間で事後指導していかなければいけない。
- 年度当初の教育課程には計画されてなかったため、実践する時間を確保するのが、とても大変で本時だけになってしまい、継続指導できなかった。
- 現在の教育課程の中で「国際理解」を柱立てていくのは難しいので、教科や道徳などの時間で関連指導していくしかないと感じた。

IV. 資料

○澁澤 文隆 編『中学校「国際理解」ファックス教材集』（明治図書）

○平成20年度 教師海外研修報告書